

円滑で透明性のある新型コロナワクチン接種体制の確立に向けて

新型コロナワクチンの接種については、これまで医療従事者等接種が進められてきたところですが、4月12日から、住民接種の幕開けとなる高齢者接種がスタートしました。変異株の拡大などにより、全国的に感染状況が悪化する中で、コロナ収束の「切り札」とされるワクチンに対する国民の期待は、日々高まりを見せています。

このような状況のもとで、国では、全国知事会がとりまとめた接種実績の公表に関する都道府県調査の結果をふまえ、4月19日から週1回のペースで都道府県別のワクチンの接種回数の公表を開始しました。この接種実績の公表によって、新たな課題も見えてきていますので、各都道府県には次の3点についてのご協力をお願いします。

1. ワクチン接種記録システム(VRS)の活用

- 公表された高齢者接種の接種回数については、VRSに入力された接種実績を元にして、VRSについては、令和3年3月5日付けて内閣官房と厚生労働省の連名で各自治体宛てに協力依頼がなされているところですが、個々の市区町村や医療機関のVRSによる接種記録の入力が追いついていないなどの理由により、実態と乖離した接種実績となっている例も見受けられます。
- ワクチン接種状況については国民の皆さんの関心も高く、その正確な情報を迅速に提供することは、国民の皆さんの信頼感、安心感の底上げにつながるものであり、国民の皆さんにさまざまなご理解、ご協力をお願いしている我々行政に携わる者の責務であると考えます。加えて、VRSに入力された接種実績は、今後のワクチン配分にも関わってくる可能性があります。
- 各都道府県においては、市区町村がこのような趣旨をご理解いただき、積極的な活用を図っていただけるよう、改めて管内市区町村への周知へのご協力をお願いします。

2. 医療従事者等向け接種の円滑な実施

- 医療従事者等向け接種に関しては、ワクチンの供給量に対して使用された割合が低位となっている都道府県もあります。
- これは、供給されたワクチンを2回目接種用にプールしたり、感染拡大状況によりコロナ対応を優先するなど、各地域の実情に応じた接種体制となっていることも一因にあります。しかし、そうした個別事情があるとしても、早期の接種を渴望する住民の視点に立てば、一定割合のワクチンが有効に使われていないという現状は課題であると考えられます。
- 特に医療従事者向け接種を円滑に進めることは、住民接種を迅速に進めることにつながるものです。そのためにも、各都道府県においては、供給されたワクチンを余すことなく活用して、迅速かつ的確に接種を進めていくことが期待されていますので、接種に対する透明性の確保とともに、円滑な実施に向けたご協力をお願いします。

3. 高齢者向け接種のワクチンの的確な配分要望

- 令和3年4月22日付で高齢者向け第5クールのワクチン配分量が通知されましたが、要望量が上回ったため、一定の率で割り落とされた量が配分されることとなりました。また、この結果、地域間でも配分状況に大きな差が生じている状況にあります。
- 中には、ワクチン確保のために余裕をもって要望した団体もあるのではないかと考えられますが、限られたワクチンを有効活用し、全国で速やかに希望者が接種を完了するためには、各団体が接種体制を踏まえた上で適正なワクチン量を要望いただくことが重要です。
- 各都道府県においては、既に各市区町村に対して、接種体制に応じた適正なワクチン量を要望するよう調整いただいていることと存じますが、重ねて円滑なワクチン接種に向けてご協力をお願いいたします。

令和3年4月24日

全国知事会 新型コロナウイルス感染症ワクチン接種特別対策チーム